



「思わず寄りたい」

お店づくりにチャレンジ【第4回】

テーマ1:ファサード(店舗正面外装)編 その3(明るさ)

今回はファサードの“明るさ”がなぜ大切かを考えてみましょう。
前回まで“間口感”“高級感”“清潔感”について解説してきましたが、今回の“明るさ”が解決できれば『思わず寄りたい』お店づくりの外装・外観は完了です。

見直しのポイント

- 周辺の店舗と比べて著しく暗くなっていませんか?
- パラペット(店舗底)部分・店舗左右部分・ウインドーケース陳列部分の3点はそれぞれ明るいですか?
- 日中におけるウインドーケース内の個装陳列・ダミー陳列部分やディスプレイ部分の明るさは、外光だけで充分だと思っていないですか?

階段が“暗い・狭い・急勾配”な状況では、人間は本能的に緊張や警戒をして、通行を避けたがる傾向にあります。

小売業における店舗も同様で、とくに“暗いイメージ”というだけでお客様の寄りつきが悪くなります。やはり周辺店舗に劣らない全体的な“明るさ”が必要となります。そして店舗全体の明るさはもちろんのこと、ウインドーケースや自動販売機等で、より“明るい”部分をつくり出すことも大切です。

“明るさ”が必要なところは?

前回までにご説明したとおり、ファサード面での照明器具の設置は不可欠です。

パラペット(店舗底)部分

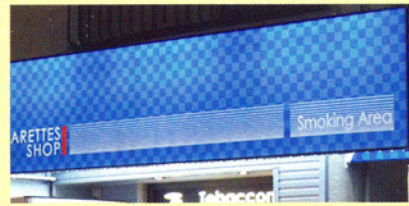
ファサード全体で、最も明るくしていただきたい部分です。

非内照式看板の場合は、スポットライト等で万遍なく照らす必要があります。たとえ内照式であっても、“暗い”と感じたら、照明器具を増設するなどして、明るさをアップしましょう。



日除けテント

店頭部分の明るさを確保するために、テントの下場に照明器具を取り付けて、店頭全体を明るくしましょう。透光性のあるテント布地を使用して、テント全体が明るくなるバックリット式(内照式)テントも効果的です。



ウインドーケース

個装陳列・ダミー陳列部分の照明として、一般的には上部に設けた蛍光管を使用しますので下部が暗くなります。下部に蛍光管を追加する方法もあります。ダミー陳列では背面部分を内照式にすることで、全体を明るくすることができます。周りが明るいからといって、照明を消してしまつては、商品をアピールすることができませんので、日中でも、なるべく点灯することをお勧めします。

